

# シカ科で唯一♀にも角が生えます



角

♂は12月くらいに抜け落ちますが、♀は翌年の4月くらいまで残っています。トナカイは5月~6月が産期。♀に角があることで、餌が乏しい冬を♂より優位な条件で乗り切ることができるのです。時には雪下の餌を探すため、雪かきとして使うこともあります。



毛

皮膚が見えない

全身厚い毛で覆われています

♀ 雁来(かき)

♂ ルドルフ



蹄

副蹄

薄くて大きい蹄は

雪や湿地に特化した蹄を持っています。他のシカ科の動物に比べて薄くて大きい、さらに副蹄(ふくこい)も発達しているので、雪やぬかるみでも埋まらずに歩くことができます。さらに水の中では水かきのような役目も!



冬の秋田は涼しいくらいでしょう。寒さの心配が全くない代わりに、暑さ対策が最も大変で重要な飼育管理となります。

← 足の裏

歩く音にも注目!

足の構造により「カチカチ」と音が鳴ります。移動中、後に続く仲間を導くために役立っていると考えられています。

# トナカイは歯が命

～ 私たち固いのは苦手なの～



門歯が小さく、  
噛み切らず食べる草  
のような餌は不向き  
(写真は♀サクラ10歳)

生息地では  
ハナゴケ等の地衣類



★栽培を試みましたが断念  
(上記写真は栽培開始当時)

- ヤナギやカバノキ等の葉
- キノコ類

大森山では  
ルーサン乾草6坪(1頭分)



★葉の部分のみを選んで  
食べるため、たくさん与える  
必要あり。

- 水鳥用のパレット 300g
- 園内の木の葉 (1頭分)  
やわらかい



# トナカイの繁殖と成長



そして、**寿命**...

**繁殖期**

9月下旬~11月上旬

**産子数**

1頭(稀に双子も)

**性成熟**

オス・メス共に2歳の秋

出産時の体重は約5kg。

トナカイは出産後まもなく、食べ物を求め大移動するため、他の草食動物とは違い授乳期間は2ヵ月ほどしかない。子どもは2週間ほどで素早く走れるようになる他、1ヵ月を過ぎると親と同じ物を食べるようになる。子どもの成長は他のシカ科の仲間には比べても早く、オスの子どもは1年で母親と同じ大きさに成長する。



生後まもない親子  
母:雁来(カリキ) 仔:春来(1111キ)



1年後の親子  
右:雁来 左:春来

大森山動物園は、トナカイの幸福な暮らしの実現に向けた取り組みを実践しています。

**エンリッチメント大賞2019 大賞受賞** ✨

野生では、北極圏周辺という厳しい環境で生息しているため寿命は短く、メスは10歳~15歳、オスは8歳~10歳とされている。

動物園では最長20歳くらいまで生きる個体もいるが、野生とは逆の暑さによるストレス等が、多くは10年程度で死亡することが多い。



2月

出産を控えたメスが群れの先陣をきって北へ数百kmもの移動を開始。約1ヵ月遅れてオスや妊娠していないメスなど、急ぐ

必要がないトナカイが同じ場所を目指して移動を開始する。

5月下旬

先に目的地ツンドラ地帯に到着したメスたちが出産。

※90%以上の子供は1週間の間に生まれる。子供は、翌日には走れるようになり、母乳の他、草や花などを食べながら成長する。



7月

ツンドラには蚊が大量発生するため、気温が低い高地に移動し、ヤナギなどを食べる。



# トナカイの大移動

8月下旬

来た道を戻るように南下を始め、移動後の10月下旬に繁殖期を迎える。越冬地とはいえ、一面が雪に覆われているため、冬の間は雪をかき分けながら餌を食べ続ける。



# トナカイの変化に富んだ1年



毎年オスは12月~1月  
メスは3月~4月に角が抜け落ちます。



抜け落ちた角は、オスが3月下旬、メスは4月中旬から徐々に生え始めます。

9月



6月上旬

白い冬毛が手や腹から抜け始め、徐々に夏毛へと衣替え。  
そして...赤ちゃんが生まれる季節です。



7月中旬

フサフサした袋に覆れた立派な角に成長。そして、全身が黒っぽい夏毛に変化。



早くも冬毛が生え出します。  
下旬になると、角の袋が剥がれ、枯角に変化します。